

平成26年度第7回白井市子ども・子育て会議
 摘録

会議名	平成26年度第7回白井市子ども・子育て会議	
日時	平成26年12月18日(木) 午後2時から	
場所	保健福祉センター2階 研修室2	
出席者氏名	委員	廣澤委員、菅森委員、浅野委員、田村委員、風間委員、鈴木委員、駒村委員、星委員、嶋本委員、木村委員、堀井委員、森委員
	事務局	健康福祉部 児童家庭課
欠席者氏名	鳥海委員、金子委員、伊藤委員、穴田委員、田中委員、新倉委員	
次第	1. 開会 2. 報告事項 3. 議事 (1) 子ども・子育て支援事業計画(案)について (2) 子ども・子育て支援事業計画策定スケジュールについて (3) その他について 4. 閉会	
議事内容	次ページ以降の通り	

議 事

1. 開会

2. 報告事項

3. 議事

(1) 子ども・子育て支援事業計画（案）について

（事務局より説明（素案P55まで））

廣澤会長：質問がございましたらお願いいたします。

森委員：P41のファミリー・サポート・センター事業について、「就学児のみ」という記載がありますが、乳幼児も受けているのではないのでしょうか。

事務局：誤りになります。削除させていただきます。

（事務局より説明（素案P56以降））

廣澤会長：質問がございましたらお願いいたします。

事務局：意見については何かありましたら、追ってご連絡お願いいたします。計画は策定次第県、国に報告します。国の方でも、消費税関係等でまだ動いており、不明確な部分もありますが、今後の動きも注視して財源の確保に努めていきます。素案については、修正後、庁内での会議にかけ、2月上旬にパブリックコメントを実施します。その後3月上旬に改めて子ども・子育て会議を開催し、その結果について報告させていただきます。また、その際、次世代育成行動支援対策推進法に基づく市の取り組みの進捗状況についての報告も併せてさせていただきます。

(2) 子ども・子育て支援事業計画策定スケジュールについて

（事務局より説明）

廣澤会長：質問がございましたらお願いいたします。ご質問がないので、議題（2）を終わります。

(3) その他について

（事務局より「次世代育成支援対策地域協議会」を「子ども・子育て会議」に併合することについて説明）

廣澤会長：質問がございましたらお願いいたします。

森委員：P58の目標Aについて「子どもの自尊心を育てる」とあり、すごく大事なことであるが、P50ページでは「心身の健やかな成長」とあり、「自尊心」という言葉が入っていない。個人的なことであるが、学校の現場でどうしていくか考えているところなので、市として取り組むこととして、計画に具体的に入ってくるとよいと思います。

事務局：項目として特だしはしていませんが、訪問事業や健診、児童館等の行事等で親の方に接する機会にエッセンスとして取り入れながら実施しています。非常に大事な部分ですので、項目立てしなくても、取り組んでいきたいと思えます。

事務局：補足ですが、P63の通り、計画を立てて終わりではなく、実行して、進行管理をおこない、公表して、見直しを行っていくというサイクルが大事だと考えています。進捗状況については、会議の場で示していくので、是非ご意見いただければと思います。

駒村委員：P62で、「市教育委員会と市児童家庭課が連携して」と限定された形で書かれてい

るが、自治会やボランティア、NPOなどと連携して地域で見守りを行えば、お金を使うことなく成果を上げることができ、地域の連帯感なども醸成できると思います。このようなアイデアを是非検討していただきたいと思います。

事務局：運営協議会の設置については、市教育委員会、市児童家庭課だけでなく、PTAや自治会、NPOの方にも入っていただくことを想定しています。この事業については、地域の活力なしでは実施できないと考えていますので、連携していきたいと思いません。

駒村委員：市から情報発信する際に、市民や関係者が取り組みにリンクしやすいようにすると効果が得られると思います。部外者ではなく、関わっているという意識を持たせることが大事だと思います。

廣澤会長：その他質問がございましたらお願いいたします。

星委員：先ほどの自尊心でよく言われる話で、外国の子どもに自分のよい所を挙げさせると沢山でてくるが、日本人はあまり出てこないという話があります。育てている母親が子育てに自信を持って、子どもに自尊心を伝えることが大事であると思います。そのため、計画としてまとめるときに、母親が自信を持って子どもを育てることができ、子どもも自分を大事にすることができるという視点を持つことができると思います。

また、子育ての掲示板で、上の子が病気になったときに下の子をどうしたらよいかということがあがるが、近所の母親に頼みたいという考えになるが、今の親は、下の子どもも病気にかかっている可能性や、周りへの迷惑を先に考えてしまうため、お金を出して解決できるものに頼ってしまうというケースを見かけました。迷惑をかける、自信を持ってお願いできない親が多くいることを感じました。それが、良いか悪いかは別にして、現代の母親がそうなっている以上、病児保育など市がこういうサービスや事業があると割り切ってアピールしていくことが親の役に立つのではないかと思います。今の母親のニーズをくみ取って支援していくことが大事なので、母親がどう思っているかを把握しながらやっていただきたいと思います。

廣澤会長：ここにきている方は団体の代表者なので、地域で子どもを育てていくことを考えているが、一般の市民の方にはそうでない方もいっぱいいると思います。そういった方が地域で子育てすることができるように考えて頂ければと思います。

駒村委員：自治会の会長をしていますが、「共助」という考え方で、お互い様の精神のもと、「迷惑をかけてくれてありがとう」といえる地域を目指してメッセージを発信していましたが、なかなか難しいところがあります。しかし、そういうメッセージを出し続けて、共感してもらえるようにしていくことが必要だと思っています。

廣澤会長：その他、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。ないようですので、議題（3）を終わります。

4. 閉会

(終了)